

■ 川崎学園岡山キャンパス整備事業

2016



2016年11月

川崎医科大学附属川崎病院 閉院



2016年12月

旧深堀小学校跡地に
川崎医科大学 総合医療センター 開院
(病床数: 647床)

2017



川崎医科大学附属川崎病院 解体工事
(解体期間: 2017年7月~2019年1月)



2022年3月

川崎医療短期大学 新校舎棟竣工
(看護学科 / 医療介護福祉学科 入学定員 170名)



2023年9月

川崎医科大学高齢者医療センター 開院
(病床数: 102床)

学校法人川崎学園の母体となった総合病院川崎病院（川崎医科大学附属川崎病院）は長年にわたり地域の皆様に支えられて発展してまいりました。同病院は2016年12月、旧深堀小学校跡地に「川崎医科大学総合医療センター」と名前を新たに新築移転いたしました。その川崎病院跡地に2022年3月「川崎医療短期大学」新校舎棟が竣工、2023年9月、「川崎医科大学高齢者医療センター」が開院いたします。これら3施設の「川崎学園岡山キャンパス」では診療・教育・研究を通して地域の医療福祉の充実に貢献していきます。

お問い合わせ

川崎医科大学高齢者医療センター

〒700-0821
岡山県岡山市北区中山下二丁目1番80号
TEL: 086-225-2112(開院準備室)
URL: <https://o.kawasaki-m.ac.jp/>



Access Map

- ① 川崎医科大学
総合医療センター
- ② 川崎医療短期大学

在宅療養を支援する病院

川崎医科大学高齢者医療センター

— 2023年9月1日 開院 —



学校法人川崎学園は学園創立50周年記念事業の一環として川崎医科大学高齢者医療センターを開院いたします。超高齢社会を迎えるにあたって地域包括ケアシステムを支える多職種の医療福祉の専門職を育てるというコンセプトを持った全国で初めての大学病院です。

学園創設者川崎祐宣が岡山市内で外科医院を開業して今年で85年目を迎えます。「病院は患者さんのためにある」という創業からの思いを受け継ぎ、地域の急性期病院やかかりつけ医の先生方と連携しながら、高齢者総合診療や在宅療養の支援等を通して、地域の皆様が安心して生活できるよう努めてまいります。今後ともご支援、ご指導のほど、心よりお願い申し上げます。

学校法人川崎学園 理事長 川崎 誠治

超高齢社会に対応し、 治す医療から「治し支える」医療へ



川崎医科大学
高齢者医療センター
開院準備室 室長
柏原 直樹

人が長生きできる時代がやってきました。長寿の実現は人々が長年にわたり望んできたことであり、慶賀すべき事柄です。加齢に伴い、頭髪が白髪になるように、様々な臓器に加齢変化が生じることは避けられません。脳や筋肉（骨格筋）の機能も低下し、認知障害や体力低下（フレイル）の原因となります。高齢者が何かの病気にかかると、全身の心身機能の低下が加速されます。高齢者は複数の疾患を持つことも珍しくありません。高齢者医療では、全身を診る「総合診療」が必要になります。若・中年期の急性期疾患を中心とした臓器別医療とは全く異なるわけです。超高齢社会を迎え、医療のあり方、医療を提供する場、医療者も柔軟に変化する必要があります。高齢者医療は、我が国のもうひとつの最先端医療といえるでしょう。ご高齢になっても、可能な限り住み慣れた自宅で、自立して健やかな生活が送れるように支えていきたい願っています。川崎医科大学高齢者医療センターは国民が求める高齢者総合医療を提供し、担うことのできる医療人材を育成していきます。地域に住まう高齢者の皆様を支え、身近な医療機関として地域社会に貢献してまいります。



■ 川崎医科大学高齢者医療センターの取り組み

川崎医科大学高齢者医療センターでは、医療福祉の様々な専門職が連携して、住み慣れた地域で暮らす高齢者の皆様を支えていきます。

※医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療介護福祉士、社会福祉士、臨床心理士、管理栄養士、薬剤師等

Point 1 高齢者総合診療科

老年症候群外来

高齢になると、様々な心身機能の低下（ふらつき、低栄養、認知機能障害等）が生じ、複数の疾患をもつこと（マルチモビディティ）も増えてきます。この状態は「老年症候群」と呼ばれ、今までの臓器別診療だけでは対応しきれません。高齢者医療センターでは、老年医学の専門医を中心としたチーム医療で総合的かつ全人的に診療をすすめます。また、多くの薬を服用しているため、副作用を起こしたり、きちんと薬が飲めなくなっている状態（ポリファーマシー）に対し、かかりつけ医と連携を図りながら、課題を整理していきます。



川崎医科大学 総合老年医学 杉本 研教授



川崎医科大学 認知症学 和田 健二教授

もの忘れ外来

認知症やその前段階である軽度認知障害（MCI）を診断し、臨床心理士等によるカウンセリングを通して、患者さんやご家族の生活指導を含めた治療方針を決定します。また、かかりつけ医や在宅療養を支える訪問事業所等と連携を図りながら、診療を継続し、在宅での生活を支援します。



フレイルセンター

..... フレイル予防

加齢に伴う体力の低下（フレイル）を予防するために、フレイルセンターでは高齢者総合機能評価（CGA）や身体機能評価に基づき、健康運動指導士等が体力維持・筋力増加のための運動プログラムを提供します。

Point 2 地域包括ケア病棟（在宅復帰支援）



地域包括ケア病棟では、転倒による骨折や手術、心不全・肺炎等の急性期治療で症状が安定した患者さんに対し、医師・看護師を中心とした多職種チームによる医療で、在宅復帰に向けた支援を行います（ポストアキュート）。

また、在宅や施設で療養中の患者さんが一時的に症状が悪化した場合の入院も受け入れます（サブアキュート）。在宅療養中の患者さんや、ご家族の休養を目的とした短期入院（レスパイト入院）の相談にも対応します。

Point 3 在宅療養支援センター

訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ

「訪問看護ステーションかわさき」「かわさき訪問介護ステーション」では地域のかかりつけ医と連携しながら、在宅療養中の患者さんが住み慣れた場所で安心して生活ができるよう支援します。

「居宅介護支援事業所かわさき」では、医療福祉に強いケアマネジャーが、地域の皆様の生活を支えます。

